

第34回（2024年）
全国花のまちづくりコンクール

1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の理念を継承してこの事業を推進しています



提 唱
農林水産省
国土交通省

主 催
花のまちづくりコンクール推進協議会
〔公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 公益財団法人都市緑化機構〕
一般財団法人日本花普及センター 公益財団法人日本花の会

後 援
文部科学省 全国知事会 全国市長会 全国町村会 （一社）日本経済団体連合会 （一社）日本新聞協会 **NHK**

協 賛
（公社）園芸文化協会 （一財）沖縄美ら島財団 （一財）公園財団 （一社）JFTD 全国公園協会協議会
（一財）地域活性化センター （一社）日本インドア・グリーン協会 （一社）日本植木協会
（一社）日本花き卸売市場協会 （一社）日本花き生産協会 （公社）日本家庭園芸普及協会
（公社）日本観光振興協会 （一社）日本公園施設業協会 （一社）日本公園緑地協会 （公財）日本さくらの会
（一社）日本施設園芸協会 （一社）日本種苗協会 （一社）日本造園組合連合会 （一社）日本造園建設業協会
（一財）日本造園修景協会 （公社）日本フラワーデザイナー協会 （一社）日本ホテル協会
（一財）日本緑化センター （一社）ランドスケープコンサルタンツ協会

協力
コマツ 中道リース株式会社 キャプテンスタッグ株式会社

お問い合わせ先

コンクール事務局 公益財団法人日本花の会

〒105-8316 東京都港区海岸一丁目2-20 汐留ビルディング
TEL 03-6849-9821 FAX 03-6849-9822



<https://www.hananokai.or.jp/city/>

表紙の写真 第34回（2024年）全国花のまちづくりコンクール 大賞受賞者

上段左 佐野 誉志照・恵美子 / 上段中 南大塚都電沿線協議会 / 上段右 特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク
下段左 五霞町立五霞中学校 / 下段右 三島市東大場花の会

第34回（2024年）

全国花のまちづくりコンクール
報告書



花のまちづくりコンクール推進協議会

第34 回（2024 年）全国花のまちづくりコンクール 受賞者一覧

応募者数 605 件 （市町村部門 2 団体部門 361 学校部門 119 個人部門 103 企業部門 20）

大賞（5 件）

農林水産大臣賞

団体部門 三島市東大場花の会

団体部門 特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク

国土交通大臣賞

団体部門 南大塚都電沿線協議会

個人部門 佐野 誉志照・恵美子

文部科学大臣賞

学校部門 五霞町立五霞中学校

優秀賞（7 件）

市町村部門 恵庭市、株式会社ガーデンシティ恵庭

団体部門 大濠公園ガーデニングクラブ

学校部門 喜多方市立上三宮小学校

個人部門 房谷 弘之
松浦 さつき・千春

企業部門 NEC ソリューションイノベータ株式会社
株式会社ベースワン

奨励賞（10 件）

団体部門 秋桜「地域を花でかざろう会」 花クラブ実行委員会（2 班）
袋井市花の会 高尾町公園シンボル花壇 川崎地区絆づくり
グループふじとう地域住民サポーター さくらクラブ シーマークス・タテニワ倶楽部
ガーデンファイブ
学校部門 みなべ町立高城小学校 浦添市立浦西中学校
個人部門 佐々木 裕哲

入選（26 件）

団体部門 福島県相双日本花の会 高岡市立醍醐公民館 花と緑の推進部会
高松宮竹花と緑の会 天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト
伊豆の国市商工会 女性部 関田西高砂会・関田東高砂会
如意申長寿会 名塩さくら台景観緑化クラブ
伊丹市フラワーリーダー同好会 8 期生 鶉野中町花家族の会
下里とも子ガーデン 花てまりの会
横川第二公園園芸クラブ 北九州市立小嶺児童館
学校部門 海南市立巽小学校
個人部門 鈴木 洋一・民子 益田 満智子
増田 豊和 奥川 きみ子
尾花 幸雄 寺尾 康男・桂子
刈尾 安正・希美子
企業部門 株式会社昭和観光 タニザワフーズ株式会社
有限会社豆蔵 武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

特別賞（8 件） … 当コンクールにおいて入賞回数が規定回に達した継続的な活動を特別に称えます

シルバー賞
（入賞回数 5 回）

団体部門 高岡市立醍醐公民館 花と緑の推進部会 伊豆の国市商工会 女性部
下里とも子ガーデン 花てまりの会
学校部門 海南市立巽小学校 みなべ町立高城小学校
個人部門 寺尾 康男・桂子 松浦 さつき・千春

コンクール審査委員長 齋藤 京子



第34回全国花のまちづくりコンクールの総応募数は605件となり、昨年の878件より273件減少しました。コンクールへの応募を自分たちの活動の記録やPR、活動の励みやネットワークづくりのきっかけとして等、気軽にご応募いただきたく願います。部門別には市町村2件、団体361件、学校119件、個人103件、企業20件でした。

この度、栄えある各賞を受賞されました皆さまへ、心からお祝い申し上げます。そして、花のまちづくり活動に取り組む全ての皆さま及び日頃からこの活動を支えていただいている関係者・関係機関・団体などの方々に心より感謝申し上げます。

「花の社会性」を実感できた各地の取り組み、広く知っていただき応援していただきたい！

花のまちづくりは、地域の環境づくりやコミュニティづくり、人づくりに資する“花の社会性”をまちづくりに活かす活動です。荒れ地や耕作放棄地、遊休農地を何とか綺麗にしたい、殺風景な街中に花や緑を取り入れたい、子どもたちの豊かな心を育みたい等、その原点には、地域の共通の問題意識があります。仲間と話し合い活動の方向性を共有し、工夫しながら年々の活動の結果、美しく心地よい地域に変わっていきます。今回の応募に見られたのは、この「花の社会性」が発揮されていたことです。この取り組みを、行政サイドが広報や資材費、花苗代、水道代、ネットワークづくり、感謝状の贈呈など様々に応援していただくことが、活動の励みと継続につながります。花のまちづくり活動へのご理解とご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

大賞受賞者の注目すべき高く評価された取り組み

三島市東大場花の会は、町内の市有地1,000㎡が荒れ地になっていたのを、町民有志で憩いの花壇を作ろうと2005年から活動を開始。今では、夏場でも芝生の鮮やかな緑と花壇の生命力あふれる花々が地域住民を楽しませています。土づくりと草取りが徹底され、73種の草花が咲き、住民に花束をプレゼントする等、まさに努力と工夫を楽しく続けながらレベルの高い花壇を継続している取り組みが大変高く評価されました。

特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワークは、2006年から遊休農地に菜の花やヒマワリを植えることで、景観形成、資源循環、観光、農業の担い手確保等に繋げる活動を実施。活動支援のため、種子の支給、機械作業委託や菜の花エコサポーター制度の設置など、多くの仕組みが用意され、法人の役員会に田原市の職員も参加する等田原市の積極的な取り組みもすばらしく、農業が盛んな地域での花のまちづくり活動のモデルとして大変高く評価されました。

南大塚都電沿線協議会は、不法投棄など治安が懸念された都電沿線の美化活動を2008年から始め、第25回本コンクールで大賞を受賞。その後、活動場所にJR大塚駅前広場を追加、バラ見守り隊に地元の小中学校が参加、区役所、JR、都電、商店会等との関係性も良好等、その活動の幅とレベルが高まっています。バラ

の健全な生育を支える管理作業も適切に行われており、都市部におけるこれらの取り組みが大変高く評価されました。

佐野 誉志照・恵美子氏は、2009年より一年中、自宅の庭をオープンガーデンとして開放。花の色別に庭のコーナーを分けて植栽する等変化のある庭づくりをしています。また、自ら考案した種子の発芽方法で花苗を生産し、地域内の花壇に苗を配布し、地域や学校の花壇活動を支えています。更に、浜松市の協働センターの花作り講座講師を9年間続け、地域内外の園芸のリーダー養成に貢献されているなどの取り組みが大変高く評価されました。

五霞町立五霞中学校は、「心豊かな生徒」の教育目標のもと、2013年から花いっぱい为学校づくりを開始。委員会を中心に157人の全校生徒が日々花壇の手入れをしています。花壇のデザインに生徒の意見を取り入れ、猛暑の中でも花壇が活き活きとしており、土づくり、健全な自家生産苗、栽培管理の適切さなどが際立っています。余剰苗は地域や役所等に配布し交流を広げ、地域社会との協力関係も良好など、中学校としての取り組みが大変高く評価されました。

以上、第34回を迎えた全国花のまちづくりコンクールの審査講評を終わります。

団体部門 三島市東大場花の会 静岡県三島市



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ・活動の概要

町内に1,000㎡の公共用地があり、使われないまま10年以上が経過し、クズやススキが鬱蒼と茂る状態でした。その頃、その土地を借りて住民の憩いの広場を作ろうとの意見が本格化し、2005年5月に当会が発足します。当初は、大きな石や雑草の始末に追われ、花を育てる環境に至らず苦慮しましたが、現在は17の花壇をその用地で展開しています。活動は、月の第2日曜日に全員集まること以外は大きな縛りはありません。花壇の手入れは、手の空いた時間に行います。花や緑を楽しむ中、人と人との繋がりが笑顔溢れる場の提供を目指しています。



努力していること

花壇の規模が大きく、雑草の処理や花から摘みに追われない工夫、花の種類を増やす工夫、花の数を増やす工夫、土づくり、などを行っています。例えば、①雑草の花が咲く前に除草する。(花を咲かせると100倍の労苦が待っている) ②セルフクリーニング機能を持つ花を多用する。(花から摘みの手間を省く) ③花を増やす。(差し芽で苗を無限に増やす、ポーチュラカを4株から600株にする) などです。

活動の成果

活動を通して、花壇は確実に進化しています。年間80種類余りの花が咲き、散歩中のまちの方々からお褒めの言葉をいただくほか、介護施設の方々や花仲間も足を運んでくださいます。町内を通るバスの名前も「花のまち号」になるなど、多岐にわたり良い方向に向かっています。

今後の展開

大賞を頂いたことで、より一層「花のまちづくり」の機運が高まると考えます。行政や町内会から様々な支援をいただく中で、会の規約変更やボランティア主体の活動から町内会主体の活動へのステップアップも期待します。受賞は、活動形態を少数メンバーからより多くの方の参加へと進化発展させる絶好の機会と捉えています。この名誉を今後のロールモデル(規範)として、大切に育てていきたいです。



団体部門 特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク 愛知県田原市



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ

田原市は農業が盛んな地域で、農業産出額は全国トップクラスを誇りますが、農家の高齢化等により耕作放棄地が増加傾向にあったことから、菜の花等の栽培を通じた景観美化や農地の健全化を目的とする菜の花エコプロジェクトが2003年から始まりました。菜の花エコプロジェクトの事業について行政と協働し実践的に進めるため、特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワークを2006年4月3日に設立しました。



活動の概要

菜の花をキーワードにした活動は、遊休農地での菜の花の栽培や菜種の利活用による田原産菜種油の製造・販売や、保育園、こども園、小学校等での環境学習、臨海企業と連携した環境美化活動など多岐にわたり、地域の多様な主体と連携し活動しています。現在は、市内20か所の合計40,558㎡の遊休農地に菜の花等を栽培しており、健全化した農地は、2023年度までに125件で約149,276㎡を次の担い手へ橋渡しをしてきました。

努力していること

農業を極力使用しない菜の花栽培や、周辺の環境にも配慮しています。また咲き終わりの菜の花やヒマワリを緑肥として畑にすき込むなど、資源循環型の活動となるよう心掛けています。



活動の成果

早春の渥美半島に咲き誇る一面の菜の花は、季節の風物詩として観光振興につながり、子どもたちと一緒に菜の花栽培を行うことで、地域への愛着や誇りの醸成にもつながっています。また、2023年から運用を開始している菜の花エコサポーター制度に登録した個人・団体の方々が、菜の花の栽培、菜の花や菜種油を活用した商品開発のほか、キッチンカー等で菜の花料理を振る舞う「菜の花エコ・グルメチーム」を立ち上げるなど、地域経済にも寄与する取り組みに発展しています。

今後の展開

これまでは、点と点だった菜の花畑を線でつなげ、花のまち田原を象徴するようなフラワーロードとなるよう、行政や事業者、地域の皆さんと協働し、渥美半島を花の力でもっと明るくしていきたいと考えています。

団体部門 南大塚都電沿線協議会 東京都豊島区



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ・活動の概要

私たちの街、大塚は「東京さくらトラム（都電荒川線）」が街の中心を通っています。2007年頃の沿線は、不法投棄のゴミや放置自転車などで荒れ、汚れや治安が懸念される状態でした。街をきれいにしよ



うと有志が集まり「南大塚都電沿線協議会」を発足、美化活動を行う中で100株程のバラを見つけます。それを生かし、沿線をバラロードにする活動を始めました。活動は毎月第3日曜日を定例日とし多世代が参加します。毎年バラを植樹し、大塚駅から向原駅までの約1,500mに710種 1,210株のバラが咲き誇る「大塚バラロード」が2020年に完成しました。

努力していること

沿線は人々の生活路でもあるため、無農薬・有機栽培にこだわっています。バラの花は、なるべく長く楽しめるよう四季咲きを中心とし、日本のバラ、香りのバラ、イギリスのバラ、など13エリアに分け、花に触れて香りを楽しんでいただけるように努めています。春と秋には「大塚バラまつり」を開催しバラの即売会などを行うほか、「都電とバラ」をテーマにフォトコンテストを実施しています。また、いつまでも住み続けたい街づくりとして、中学生が「バラ見守り隊」を結成し、一緒にバラの維持管理をしています。

活動の成果

沿線は明るく綺麗になり、バラが美しく咲く素敵な散歩道として多くの方に親しまれています。新たに整備されたJR大塚駅前広場では「大塚バラまつり」のほか音楽祭なども開催され、街は活気に溢れています。また「バラ見守り隊」には新たに小学生も加わり、美化活動の輪が広がっています。

今後の展開

いつまでも美しい大塚バラロードを維持管理できるよう、様々な催事と連携して活動の輪をさらに広げて行きたいです。多世代と一緒に活動する事により地域の絆の輪も広がり、環境に対する意識向上や、街に対する愛着心も高まります。今後も「安心安全で素敵な街大塚」「いつまでも住み続けたい街大塚」にしていけることが私たちの願いです。



個人部門 佐野 誉志照・恵美子 静岡県浜松市



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ・活動の概要

2009年から16年にわたり、地域に根ざした花と緑のまちづくり活動を続けています。家の建て替えを機に、新たな生活の場として庭づくりを始めたことが、活動の原点です。浜松市内のオープンガーデンに感銘を受け、自邸もオープンガーデンにすることを決意しました。様々な花を咲かせたいという思いから、種まきや苗作りを本格的に始め、試行錯誤の末、宿根草を主体とした、一年を通して花が楽しめる庭を作り上げました。

浜松市の協働センターでは、地域の方と共に植栽を美しく整える活動や園芸講座の講師をしています。そのほか、小学校の花壇整備に協力し、子どもたちと花を育てる活動をしています。



努力していること

オープンガーデンは年間を通して開園し、丁寧に説明することを心がけています。また、毎年庭のデザインに変化を加え、新鮮な驚きを提供できるよう努めています。ボランティアで育てた苗は、学校や福祉施設、地域住民に提供し、まち全体を花でいっぱいにすることを目指しています。

活動の成果

活動を通して、地域に花を届け、美しいまち並みの創出に貢献することができました。また地域の方と交流を深め、コミュニティが活性化しました。環境に配慮した活動は、住民の環境意識向上にも繋がったと考えます。長年の活動で、私たちも知識や技術を深めスキルアップしました。特に宿根草主体の庭は、水やりなどの手間が少なく環境に優しい持続可能な庭づくりと言えます。

今後の展開

今後も多くの人と共に活動を広げたいと考えております。具体的には、花だけではなく自然環境保護や食育などにも携わり、世代を超えた交流と持続可能な地域社会の実現に貢献できればと思います。特に子どもたちへの教育活動に力を入れて、花を育てることを通して自然への関心を高め、命の大切さを学ぶ機会を提供したいと考えます。また、地域との連携を強化し、多様な主体が参加できるような仕組み作りも進めたいと考えております。



学校部門 五霞町立五霞中学校 茨城県五霞町



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ

きれいなものに触れ、育てる喜び、協力や責任、感動などが得られる花づくりの体験活動を通して、学校教育目標における、目指す生徒像のひとつ「心豊かな生徒」の育成を図りたいという願いから、2013年に「花いっぱいの学校づくり」を始めました。以来12年間、地域の方々に支えられながら活動を続けています。



活動の概要

活動は全校生徒、特に生徒会と環境整備委員会が中心です。さらに、ボランティア、地域の方のご協力を得ています。生徒の自主性やボランティアの精神を育てるために、種まき、育苗、植え付け、灌水、花壇デザイン、除草等を行っています。また、花苗の配付や提供、肥料の協力を受け、地域と一体となって「花いっぱいのまちづくり」を進めています。特に、昨年度より、地域の方がボランティアとして苗植えにも協力してくださり、より一層「地域とともにある学校づくり」を推進しています。

努力していること

本校では、花の色でも季節感を出せるような、季節や行事に合わせた花づくりを大切にしています。美しさを維持する

ために、環境整備委員会やボランティア活動の生徒を中心に、花の手入れを日常的に行っています。花から摘みや除草作業等を定期的に行うとともに、マリーゴールドを植え、害虫防除に役立てています。また、SDGsの視点から、堆肥は地域の協力者から頂き、可能な限り自家用の種を使っています。さらに、土もリサイクルに努めて環境に配慮しています。

活動の成果

活動は地域にも広まり、シルバーボランティアの方々に、花植えにも協力していただいています。世代を超えた活動が、花いっぱいの学校を作っています。交流が深まり、地域の方から、「花のあるきれいな学校」との評価をいただいています。生徒も花に囲まれた学校生活を送り、自然に親しむ心や責任感が育っています。

今後の展開

これからも、「花に囲まれた地域とともにある学校づくり」を推進し、生徒・児童の豊かな心や体の健やかな成長を支えていきたいと考えています。また、今年度からスタートした五霞中学校・五霞小学校施設隣接型小中一貫校の特性を生かして、小中学校が連携した「花いっぱいの学校づくり」を目指していきたいと思っています。





農村地帯の恵庭市を花で彩りたいと考えた住民が、1961年に「恵庭市花いっぱい文化協会」を立ち上げ、オープンガーデンやコンテストの開催など自発的な活動を続けてきました。2020年、恵庭市は「花のまち恵庭」の新たなシンボルとして94,000㎡の敷地に7つのテーマガーデンを中心とした花の拠点「はなふる」を整備し、市民主体の花のまちづくりを継承する場を創出しました。約30名の市民による植栽管理や「花と暮らし展～ガーデンフェスタ恵庭～」など催事開催を全面的にサポートしています。サステナブルなガーデンづくりと人材育成を支える花の拠点整備など、行政が市民の活動をサポートする取り組みが「花のまちづくり」のモデルケースとして高く評価されました。



福岡市の中心部に位置する大濠公園は、市民の憩いの場であり、多くの観光客も訪れる水景公園です。公園を訪れる人々を花でおもてなしたいと市民有志が集い、2005年に花壇の植栽整備と美化活動を始めました。管轄する県と協議を重ねながら、現在、ボートハウス周辺の5つのコンセプト花壇約200㎡を中心に会員28名が毎週活動しています。宿根草を軸に構成された花壇は色彩バランスが美しく、多くの来園者を惹き付けているほか、環境配慮や植栽管理技術の共有も的確で、新規会員加入や地元企業からのボランティア参加が増えています。都市公園の特徴をいかしたデザイン性の高い花壇と地域に波及する活動が高く評価されました。



喜多方市の北に位置する農村地域の児童26名、教員12名の小学校で、1975年に緑の少年団活動の一環として花壇の植栽管理を開始しました。校内、学校前、公民館前などの花壇を四季折々花で立体的に彩るとともに、交番や郵便局などに育てた花をプランターで配布しています。活動を通じて、児童は地域の力になることを学び、命を大切に作る心や思いやりの心、勤労精神を育んでいます。「花いっぱい笑顔いっぱい」というスローガンのとおり、児童がいきいきと笑顔で植物に接して活動している点や、児童や教職員、保護者、住民が連携して花を活用したコミュニティを形成し、地域全体で子どもを育てる環境づくりを長年続けている点が高く評価されました。



裏庭に植栽した一株のツルバラに魅了され、旧街道沿いの伝統的なまち並みが残る地域で2016年に夫妻で庭造りを始めました。運河からのアプローチも可能な約400㎡の庭は、バラを中心に四季を通じて花が移り変わるように構成され、2018年から5月に開催しているオープンガーデンには、地域内外から多くの方が集い、花とまちの調和を楽しんでいます。植栽の維持管理は環境への配慮を心掛け、親族や友人、近隣の方の協力も得ながら丁寧に行われ、運河沿いを含む地域の良好な緑地の創出・維持にも貢献しています。歴史あるまち並みと地縁の深い立地において、地域のコミュニティに息吹を吹き込むオープンガーデンを築いている点が高く評価されました。

個人部門 松浦 さつき・千春 兵庫県たつの市



自宅庭と休耕地の計約1,100㎡で、1年草を中心とした花園づくりと地域の交流拠点づくりに姉妹で取り組んでいます。約60年前、祖父が「目と心に栄養を」との想いで花を植え始め、母ちづ子さんが丹精込めて築いた花園は「ちづちゃんの花園」として広く親しまれていました。2019年頃から姉妹が本格的に活動を継承し、地域の方にも声を掛けながら、タネからの育苗、持続可能な土づくりなど、環境に配慮した花園づくりを続けています。通年公開している花園には地域の子どもたちをはじめ、年間約3,000人が訪れます。心安らぐ花園の維持とカフェも活用したコンサートやワークショップの開催など、地域の活性化に貢献している取り組みが高く評価されました。

企業部門 株式会社ベースワン (花のまちづくり活動拠点) 滋賀県米原市



滋賀県彦根市に本社を置く同社は、米原市への工場移転を機に、2017年から工場隣接地3,000㎡でのコミュニティガーデン「ROSE BRANCH」づくり、2019年からJR米原駅西口広場での花壇づくりに取り組んでいます。荒地であった場所は、既存樹木とモルタル造形の壁を用いて、四季折々の花が楽しめる魅力的なガーデンに変貌しました。環境に配慮した植栽はガーデナーによって良好に維持され、イベントも定期開催しています。また、米原駅西口広場の花壇も完全無農薬のバラを軸に美しい花壇へ生まれ変わり、行政と連携しボランティアの育成も進めています。地域の花のまちづくりを牽引し、景観形成やコミュニティづくり、地域振興に貢献している点が高く評価されました。

企業部門 NEC ソリューションイノベータ株式会社 東京都江東区



本社に隣接する新木場駅ロータリー前緑地のゴミのポイ捨てを減らすため2006年に始めた清掃活動が、コミュニティガーデン活動へと広がりました。約3,000㎡の敷地では、灌水を最低限とする省管理実現のため、外部アドバイスも受けながらラベンダーなど丈夫なハーブ類を主に育成しています。地域の人的交流を図る目的から、月1回の活動日には社員や地域住民が共に作業するほか、ハーブを加工して区民まつりで販売し、売り上げを花苗基金として区民団体へ寄付することで、活動を社外へ広げています。企業のCSR活動が長年継続し、行政とも協働しながら活動を発展させている点や、幅広い世代への取り組みが地域住民からも支持されている点が高く評価されました。

団体部門 秋桜「地域を花でかざろう会」 北海道札幌市



団体部門 花クラブ実行委員会（2班） 神奈川県川崎市



団体部門 袋井市花の会 高尾町公園シンボル花壇 静岡県袋井市



団体部門 川崎地区絆づくり 静岡県牧之原市



団体部門 グルッポふじとう地域住民サポーター さくらクラブ 愛知県春日井市



団体部門 シーマークス・タテニワ倶楽部 兵庫県神戸市



団体部門 ガーデンファイブ 兵庫県伊丹市



学校部門 みなべ町立高城小学校 和歌山県みなべ町



学校部門 浦添市立浦西中学校 沖縄県浦添市



個人部門 佐々木 裕哲 和歌山県有田川町



団体部門

高岡市立醍醐公民館 花と緑の推進部会



天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト



関田西高砂会・関田東高砂会



福島県相双日本花の会



高松宮竹花と緑の会



伊豆の国市商工会 女性部



如意申長寿会



名塩さくら台景観緑化クラブ



兵庫県西宮市

伊丹市フラワーリーダー同好会 8 期生



兵庫県伊丹市

学校部門

海南市立巽小学校



和歌山県海南市

鵜野中町花家族の会



兵庫県加西市

下里とも子ガーデン



和歌山県那智勝浦町

個人部門

鈴木 洋一・民子



福島県南相馬市

花てまりの会



和歌山県那智勝浦町

横川第二公園園芸クラブ



広島県広島市

益田 満智子



静岡県吉田町

増田 豊和



愛知県江南市

北九州市立小嶺児童館



福岡県北九州市

奥川 きみ子



兵庫県西宮市

尾花 幸雄



兵庫県加西市

寺尾 康男・桂子



兵庫県朝来市

刈尾 安正・希美子



兵庫県たつの市

株式会社昭和観光



茨城県鉾田市

企業部門

タニザワフーズ株式会社



愛知県岡崎市

有限会社豆蔵



愛知県岡崎市

武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園



京都府京都市

第31回

全国花のまちづくり 牧之原大会

花と共に
人と共に
牧之原市

令和 5月31日 土 ▶ 6月1日 日
7年

式典会場 牧之原市相良総合センターい〜ら

現地見学会 牧之原市内

■主催：全国花のまちづくり牧之原大会実行委員会 / 花のまちづくりコンクール推進協議会 / 牧之原市

画：静岡県牧之原市立榛原中学校 澤島わかば

大会スケジュールに関する
お問い合わせ先

全国花のまちづくり牧之原大会実行委員会（牧之原市公園公共建築課内）
〒421-0592 静岡県牧之原市相良 275 番地
Tel：0548-53-2629
Mail：koen@city.makinohara.lg.jp

全国花のまちづくり牧之原大会



さくらの植樹活動を通じ
北海道のまちづくりを応援しています。

北広島



長万部



遠軽



札幌市へ
寄贈



元気からはじめます。

 **中道リース**



生きる場所をつくる。

セレイワンディーさんの住む村は以前、地雷原だった。

「トラクターが通る時に爆発したのを見たことがある」と村の人は語ってくれた。

コマツは2008年以降、「日本地雷処理を支援する会(JMAS)」と協働で、カンボジアとラオスでの地雷除去支援活動をおこなっている。本業で培った経験と技術を駆使して、ブルドーザーや油圧ショベルをベースにした対人地雷除去機を開発。地雷を処理した跡地での農地開発や、道路や小学校をつくる取り組みも支えている。2022年カンボジアでコマツが建設を支援した10校目の小学校が開校した。

対人地雷除去機 D85MS-15

「コマツが地雷を除去してくれて、道路や学校もできて、人も育つ。安全な毎日を過ごせることが何よりも嬉しい」そう語ってくれた夫妻の息子は、今、大学でエンジニアリングの勉強をしている。彼もコマツが支援して建てられた小学校の卒業生だ。

地雷が埋められた危険な土地から安心して暮らせる土地へ。その土地に農地や道路や小学校をつくり、希望をもって暮らせる場所へ。建設機械で、人が生きる場所をつくる。コマツです。

地雷を除去し、道を開き、子供たちの未来を拓く。
コマツは建設機械で復興支援を進めています。



私の生きる場所ができるまで
カンボジア復興支援サイト

KOMATSU
Creating value together